みんなで5・7・5

みんなで創るみんなのページ。すてきな作品をお待ちしています！

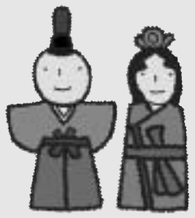
山歩き　そよ吹く風に　いやされる　能町　寮（高・城山台）
ボケ防止　５７５で　癒される　益本さつき（マ・沢）
孫笑う　祖母の頭も　電池切れ　水口　順（マ・森西）
孫いないが　となりにぎやか　ほがらかに　浅井きぬゑ（高・武曽横山）
お見舞を　ありがとうねと　母旅路　寺尾　輝代（新・北畑）
寒い朝　もう一枚と　増える服　川端　昭子（高・畑）
健康法　週休二日の　妻のぐち　中村　博夫（安・中野）
幼児と　かるたトランプ　ママの留守　曽根しづ江（マ・沢）
春を待つ　木々の蕾も　準備する　寺田　義輝（マ・西浜）
節約で　ストレスたまり　むだ遣い　平井　真造（安・上古賀）
久し振り　話す相手の　名を忘れ　久保千榮子（朽・野尻）
客足の　気になるひいばあも　一台二台　細野紀代子（マ・白谷）
老夫婦　大鍋出番は　おでんの日　髙澤　芳枝（今・松陽台）
テレビ見て　針江観たいと　遠き友　中内　保男（新・針江）
そしられて　入れ歯はずれる　クシャミし　中村　芳喜（高・武曽横山）
ちちくさく　わが子そだてて　あたまはげ　上原　信寿（今・日置前）
千両の　実の色づきて　初春近し　山田　明子（今・今津）
山ぶどう　好みの枝で　色付きし　中崎　徳子（朽・桑原）
ガタピシャと　老いの末路に　似た障子　丸岡亜希子（新・藁園）
ゴミ出す日　おむつの臭い　至福の時　曽根ケイ子（新・饗庭）
寒い朝　街ゆく人の　肩尖る　鈴木　京子（安・藤江）

空高く　鳶の群れの　舞扇　中村智英子（今・松陽台）
ありがとう　心のささえ　明日がある　沢井　美代（朽・岩瀬）
鋸で　醒めず朝まで　寝てみたい　西川五磋三（高・高島）
春近し　うぐいす初鳴き　蕗のとう　粂　洋一（新・太田）
桐一葉　流れる池や　錦ごい　木津　みね（高・拝戸）
春近し　カタログ見ては　品定め　上田幸次郎（マ・浦）
つくしんぼ　ふまれてつよし　春をまつ　高岡ふじ江（マ・小荒路）
人生は　ドラマみたいだ　なき笑い　藤森みち子（朽・柏）
つらい時　いつも心に　母の顔　中河　仁子（今・今津）
かがみ見て　シミしわしらが　いやになる　森本　幸枝（今・梅原）
寄せ集め　我が子のように　花眺め　上田　ナツ（マ・浦）
一億も　いらないけれど　くじを買う　鞍田　作枝（新・饗庭）
金木星　月と並んで　輝けり　髙橋レイ子（高・鴨川平）
読みちがえ　漢字人柄を　軽くす　井口　みよ（高・高島）
アメリカの　打ち出の小槌も　底をつく　髙橋　久一（新・藁園）
梅の香を　包んで仕舞う　衣替え　山本喜代治（安・長尾）
棚田の里　初雪つもり　冬ごもり　林　フミ子（高・畑）
遠出帰り　はとの看板見　ああ滋賀だ　向川　明子（新・藁園）
ウエストの　細いのがにくい　女王蜂　清水　真夫（今・今津）

★投稿方法

郵便またはEメールで、投稿者氏名・住所・連絡先を書き添えて投稿してください。また、応募は一人1点とし、作品や氏名には必ずふりがなをお願いします。**次回締切は4月30日**で、掲載は6月1日号・7月1日号です。

（秘書広報課）



広告募集

あなたのお店や事業の広告を出しませんか？　問 秘書広報課　☎(25) 8130

広報誌
■掲載料　10,000円/1枠（1か月1発行号限り）
■5月1日号締切　3月25日(水)

ホームページ
「みてねっと!ニュース」の最終画面に掲載主の社名表示付き!
■掲載料　1か月15,000円
■5月掲載分の締切　4月10日(金)

こころの絆 ～お父さんお母さんへの手紙～　入賞作品

優秀賞「お父さんへ」

相山　華子（東京都）33歳

今日は思い切ってお母さんの秘密を教えます。二十年以上も、内緒にしてごめんね。

お母さんの部屋に鏡台があるでしょう？　その三番目の引き出しには手紙やら指輪やら、お母さんの宝物が入っています。

私、小学生の頃に、そこを開けて遊んだことがありました。そして引き出しの奥に、水色の封筒を見つけたのです。手紙かな？　と開いてみて・・・びっくりしました。

一万円札が二枚、入っていたのです。聖徳太子の図柄のお札が二枚。当時の我が家で、一万円札なんて見るのはめったにないこと。すぐに、お母さんのところに飛んでいきました。

「お母さん、お金みつけたよ！」と。

そのお金の意味をお母さんに聞いて仰天しました。

お母さんは、言ったのです。

「このお金はね、どうしようもなくなって、神戸に帰らなきゃいけなくなった時の電車賃。お父さんには黙ってて。」

あの頃、お父さんは友達にお金を貸したり、保証人になったりして、ずいぶんと家のお金をよそにやってしまっていたよね。商売もまだ軌道に乗っていなかった頃なのに、お母さんはずいぶん苦労していました。私もお姉ちゃんも、新しい本や洋服を買ってもらいたい気持ち、何度も我慢したんだよ。

お母さんは、神戸から見知らぬ土地に来たばかりでさぞ不安だったことでしょう。きっと、あの二万円を握りしめて、神戸に帰りかけたこと、何度もあったんじゃないかしら。

その後、私は数日おきにこっそりお母さんの部屋に行って、鏡台の引き出しを探らずにはいられませんでした。あのお金がまだそこにあるのを、確かめずにはいられなかったの。

お母さんが私たちを捨てて神戸に帰ってしまうのが怖かった。特に、前の夜、お母さんが泣いているのを見てしまった日は、学校から全速力で帰って、聖徳太子の顔を見るまで安心できなかったなあ。

私とお姉ちゃんを大学まで出してくれたお父さんとお母さん。今、私も子を持って、それがどんなに大変だったか痛いほどわかります。お父さんも頑張ってくれたけど、お母さんも、本当に本当に悲しくなるくらいよく働いてくれたよね・・・。

二万円であの苦しい生活を清算することもできたはずなのに、お母さんは逃げなかった。

そして、お父さん、もう一つ教えてあげる。

その二万円はね、もう引き出しにはありません。去年のお正月に帰省したときに、なくなっていたの！

お母さんに聞いたら、「あれはね、もう要らないかなと思って、お父さんに新しいセーター買っちゃった。」だって。そういうお金までお父さんのために使ってしまうところが、お母さんらしいよね、お父さん。

その時のお母さんの満足げな顔を見て、夫婦になるってこういうことなんだなあ、と私、わかったような気がしたよ。

だからね、お父さん、お母さんにはもう神戸に帰る電車賃はありません。お母さんを大事にしてあげてね。照れくさいだろうけど、大事にね。

夏休みには、おチビをつれて、帰ります。元気でね。

華子

入賞作品全18篇を収録した作品集『こころの絆』が好評発売中です！

お求めは、中江藤樹記念館、道の駅藤樹の里あどがわまで

問政策調整課
☎(25)8114